

女性・若手研究者 キャリアデザインプロジェクト 報告書

第1回
2020

2020年度 第1回 女性・若手研究者 キャリアデザインプロジェクト

報告書 目次

ご挨拶	土佐 眞美子 しあわせキャリア支援センター センター長 神田 奈緒子 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト チーフ	P 2
プロジェクト概要		P 3
メンバー		P 4
研究レポート	グループ1 「研究費獲得方法」 グループ2 「効率の良い留学」 グループ3 「効果的な研究成果発表」 グループ4 「研究費獲得方法」 グループ5 「効率の良い留学」 グループ6 「産学連携共同研究の展開方法」	P 6 P 12 P 18 P 27 P 37 P 47
研究発表 講評	グループ1～3 植木 美希 グループ4～6 柿沼 美紀	P 53 P 56
研究人材育成セミナー		P 57
アンケート結果		P 58
巻末資料	募集要項	P 63

ご挨拶

土佐 眞美子

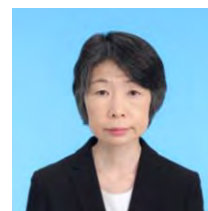
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター センター長



2019年度に採択されました、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」では、女性研究者のキャリア継続と上位職登用を目標に、ライフイベントと仕事の両立および女性研究者の研究力向上に関する様々な支援を行っています。今回の女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトは、研究者それぞれが描くキャリアパスを促進することを目指して行われたものです。参加された研究者、ご協力くださった先生皆様には心よりお礼を申し上げます。研究成果は大変興味深く有意義な内容でありました。女性・若手研究者および指導にあたる皆様にぜひご覧いただきたく、報告書を発行いたします。

神田 奈緒子

2020年度第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト チーフ
日本医科大学千葉北総病院 皮膚科 病院教授



本プロジェクトでは、連携機関(日本医科大学・日本獣医生命科学大学・アンファー株式会社)に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポストドクター35名が集結し、6グループに分かれ、医学・生命科学研究者のキャリア形成に伴う種々の問題について調査・研究し、その成果を発表しました。「研究費獲得方法」「効率の良い留学」「効果的な研究成果発表」「産学連携共同研究の展開方法」について、各グループ独自の視点に基づく研究が展開され、研究発表会ではユニークな結果発表と活発な討論が行われました。研究費獲得のための支援の現況、留学に関するアンケート結果、論文作成・学会発表のこつ、クラウドファンディングを通じた研究費の取得、産学連携共同研究の進め方など、今後の研究活動に役立つ情報が得られました。また、普段一緒に活動することのない、様々な研究分野のメンバー間で情報交換ができ、有意義な機会であったと思います。

「研究人材育成セミナー」では、自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター長の小宮根真弓先生に講演を賜り、自治医科大学の革新的なキャリア形成支援・働き方改革の推進について御教示いただきました。女性・若手研究者のキャリアアップの励みになり、本学のキャリア支援の推進に役立つセミナーであったと思います。

本年度は、コロナ禍でグループのメンバーが集まって議論することが難しい中、各メンバーが役割分担し、効率的に研究を進めることができました。しあわせキャリア支援センター事務局の皆様にも多大なる御支援をいただき、本年度のプロジェクトを成功裡に終了できたことを感謝しております。

次年度は本プロジェクトの研究内容をさらに充実させ、連携機関のより多くの研究者の皆様にも、研究発表会に参加していただき、研究成果を評価していただきたいと存じます。

2020年度 第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト 概要

プロジェクトの目的

連携機関に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポストドクターなどが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して話し合う機会を作ります。また、「研究人材育成セミナー」を開催し、女性・若手研究者に多様なキャリアパスの選択肢を提供します。参加者にとって今後のキャリア形成の一助となることを目的としています。

プロジェクトの内容

- 1) 参加者を7人程度のグループに分け、グループごとに以下の課題のいずれかを研究する
研究の方法、形式、時間などは各グループの裁量とする
- 2) グループリーダーはレポートを提出し、レポートで評価を行う
- 3) 研究発表会、研究人材育成セミナーを開催する
- 4) 参加の特典として本事業で実施する以下の支援制度への応募に際し、ポイントを付与する
グループリーダーにはさらに高く付与する
 - ・ 新型研究支援員配置制度（出産・育児・介護などライフイベントのある研究者に限る、大学院生は対象外）
 - ・ 連携機関における共同研究への研究費補助（女性研究者に限る、大学院生は対象外）

研究課題

- ・ 効率の良い留学
- ・ 研究費獲得方法
- ・ 研究ポスト獲得方法
- ・ 産学連携共同研究の展開方法
- ・ 国際共同研究の展開方法
- ・ 効率的な研究成果発表

対象者

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する以下に該当する方
女性研究者、男性研究者※、ポストドクター、大学院生

※男性研究者は40歳未満がのぞましいが限定はしない

研究期間

2020年9月14日（月）から2020年10月16日（金）まで

レポート提出日 2020年11月14日（金）

研究発表会と研究人材育成セミナー

開催日 2020年11月28日

開催方法 会場（日本医科大学教育棟2階講堂）・オンライン

2020年度 第1回女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト

メンバー表

名前	所属	部門・教室	職階	専門研究分野	研究のキーワード
グループ1					
安藤 康史	日医	分子細胞構造学分野	講師	血管生物学	血管壁細胞
石橋 真理子	日医	微生物学・免疫学	助教	造血器腫瘍	腫瘍免疫・多発性 骨髄腫・分子腫瘍 学・腫瘍微小環境
神田 秀憲	日獣	獣医薬理学研究室	助教	収縮反応と代謝	GLUT, SGLT
木邊 量子	日獣	獣医微生物学研究室	講師	細菌学	腸内細菌
三浦 奈美	日医	生体機能制御学分野	助教	分子生物学	がんバイオマーカー
山本 昌美	日獣	獣医学部 獣医保健看護学科 応用部門 病態病理学研究分野	准教授	病理学	診断病理、分子病理、飼育動物と野生動物
グループ2					
石原 慎矢	日獣	動物科学科動物遺伝育種研究室	講師	動物遺伝学	ゲノム解析、遺伝資源
瀧澤 敬美	日医	分子解剖学	講師	医学教育・骨盤解剖学・泌尿器・産婦人科学	ロボット支援手術・骨盤解剖学
知久 和寛	日獣	食品安全学教室	講師	食品科学、応用微生物学、応用生物化学	糖質、糖質関連酵素、キノコ、メイラード
遠田 悦子	日医	解析人体病理学	助教	免疫生物学	炎症、免疫、がん、マクロファージ、細胞遊走、ケモカイン
眞野 あすか	日医	生体統御科学分野	講師	神経内分泌	ストレス・CRF (Corticotropin releasing factor)
渡辺 雄貴	日獣	動物生理制御学教室	助教	神経内分泌学、繁殖学	性腺機能制御
グループ3					
小野沢 栄里	日獣	獣医保健看護学臨床部門	助教	動物看護学、小動物腫瘍学、グリーフケア	動物看護、がん、グリーフケア
貝塚 公一	日医	医学部 基礎科学 数学教室	講師	対称空間上のスペクトル・散乱理論	対称空間、散乱理論、表現論
町田 雪乃	日獣	獣医病理学研究室	助教	獣医病理学	小動物のがん
松田 寛子	日獣	農産食品学教室	講師	食品機能学、調理科学、スポーツ栄養学	農産物、ファイトケミカル、機能性、調理
若林 あや子	日医	微生物学・免疫学教室	講師	免疫学	腸管粘膜免疫、アレルギー、炎症

名前	所属	部門・教室	職階	専門研究分野	研究のキーワード
グループ4					
荒谷 紗絵	日医	腎臓内科	助教	慢性腎不全	細胞老化
大田 ゆう子	日医	リウマチ膠原病内科	助教	膠原病内科	マクロファージ、線維化
大塚 洋平	日医	皮膚科	助教	皮膚Langerhans細胞	皮膚Langerhans細胞、IL-22 産生特異的 T 細胞
呉 壮香	日医	統御機構診断病理学	助教	腫瘍学、病理学	病理学、腫瘍、甲状腺、内分泌
保利 陽子	日医	麻酔科学教室	講師	臨床麻酔、疼痛	麻酔
美辺 詩織	日医	解剖学・神経生物学分野	ポストドクター	神経内分泌学	生殖内分泌
グループ5					
尾崎 紗恵子	日医	皮膚科	助教	皮膚科	色素細胞
関根 鉄朗	日医	放射線科	講師	画像診断 (MRI・PET)・悪性腫瘍・虚血・心血流	PET/MR, 4D Flow MRI, 認知症
チョウ チータートウー	日医	分子解剖学	助教	分子生物、生殖生物、形態科学	testis-specific long non-coding RNA, spermatogenesis
戸山 友香	日医	泌尿器科	助教	女性泌尿器疾患	排尿障害
西川 純恵	日医	外国語教室	講師	英語教育	vocabulary, reading fluency
森嶋 素子	日医	心臓血管外科	助教	成人心臓血管外科一般	心筋代謝障害
グループ6					
青木 悠人	日医	消化器外科	助教	肝胆膵外科	ナビゲーションサージェリー 周術期管理
稲垣 恭子	日医	内分泌糖尿病代謝内科学	講師	脂質 糖尿病 肥満	脂質異常症 肥満
長田 康孝	アン プアー	事業開発推進本部	主任 研究員	毛髪科学	毛髪、メカノバイオロジー
川端 伊久乃	日医	女性診療科・産科	講師	周産期医学 産婦人科一般	妊娠高血圧症候群 出生前診断 胎児超音波
雁木 美衣	日医	システム生理学	助教	網膜の電気生理	網膜、アマクリン細胞、シナプス

グループ1 研究テーマ「研究費獲得方法」

安藤 康史(リーダー)、石橋 真理子、三浦 奈美、木邊 量子、神田 秀憲、山本 昌美

本グループでは研究費獲得へ向けて、下記の4つの主題に対して研究し、現状をまとめながら考察を行なった。

- 1) 研究費獲得に向けた第一歩 -どんな研究費がある？
- 2) 産学連携共同研究による外部資金の獲得 -概略と円滑な産学連携を目指して-
- 3) 研究費獲得へ向けた申請書作成のポイント
- 4) 研究業績をつくるための大学支援

1) 研究費獲得に向けた第一歩 -どんな研究費がある？-

本稿では、どのような研究費があるか、どのように自分に適した研究費を見つけるか、またキャリアデザインに向けて若手関連の研究費をいかに見つけ出すかについてまとめる。

研究費の種類

研究費の代表格としてよく知られている科研費以外にも、公的・民間の助成団体からの外部研究資金がある。

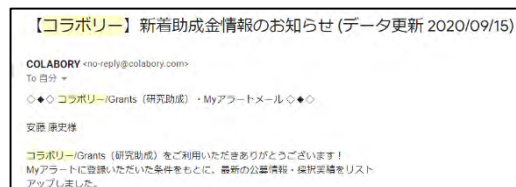
- ・ 科研費
- ・ 民間助成団体（財団、企業等）
- ・ 公的助成団体（公的機関(日本学術振興会、各省庁、JST、NEDO、地方自治体等)

科研費だけではなく、上記の助成金を活用する事で、持続的な研究活動の助けとなる。また、これらを組み合わせることで、大きな研究費獲得を目指す際の経験や実績作りにも繋がる。しかし、科研費同様に、助成団体からの助成金は競争率も高いものが多いのが現実であり、粘り強く「数」を意識して申請することが大事だと考えられている。そのためには民間の助成金を数多くピックアップする必要があるが、助成財団は数百にも上り、さらにここに研究助成事業を行っている団体・企業も加わる。また民間助成財団の特色として、事業内容が非常にバラエティに富んでいることが挙げられ、従ってこのような多種多様な助成事業のなかから、“自分に合った助成金を探すこと”が重要となる。

どのように探す？

上司や先輩から情報を得る他にも、例えば下記に示すような研究助成金を探すことができる専門サイトがいくつか知られている。

- ・ **コラボリー/Grants**; 国、地方自治体、民間助成財団の公募情報と採択実績を研究助成に特化して収集し一括検索が可能。分野、キーワードから自分に合った助成金を見つけ出せる。検索機能と条件を登録しておくデータ更新時にメールで知らせるアラート機能を提供。
- ・ **助成財団センター**; 調査に回答を寄せた民間団体から提供される公募情報と採択実績を提供。公的機関の助成金は含まれないが、研究助成に限定していないため、出版助成、奨学金、会議運営支援などを含めて広く収録。
- ・ **サイエンスポータル**; JST が運営する科学技術情報の総合 Web サイト。公募情報を提供してお



り、研究助成やコンテスト・顕彰情報が提供されている。

若手関連の研究費をいかに見つけ出すか

コラボリー／Grants（研究助成）は、「若手研究員」を対象とした公募情報だけに絞り込んで検索することができ、自分の領域を登録しておくのとそれに合うような助成金情報をメール通知してくれる便利な研究助成情報サイトである。また若手を通してきた先輩や研究仲間からの情報は大変有用で、研究者間のネットワーク形成が研究費獲得にも重要である。

参考) 科研費だけじゃない! いろいろある研究費の種類 第3回 実は多種多様!? 財団・民間の研究費 (マイナビニュース) <https://news.mynavi.jp/article/researchfund-3/>

2) 産学連携共同研究による外部資金の獲得 -概略と円滑な産学連携を目指して-

科研費や助成金は、文科省および厚労省、様々な財団などに対して自身の研究計画を提示し、それに対して研究費を出資してもらう研究費のことである。研究者は、その研究において一定の規則の下、研究費を自由に使うことができる。これらの研究費のメリットは、獲得できれば研究の主体は研究者側にあるということや、助成プログラムが多岐にわたっており自分の研究に最適なものを選べるということが挙げられる。このような、ひとつのセクター内で完結する個人-グループ型研究の支援が主となる科研費や助成金に加えて産学連携による外部資金の獲得は大きな研究費となるほか、知財の共有による無形の研究費の活用により研究の発展が期待できる。従って、円滑に産学連携プロジェクトを進行し、効果的に成果を上げることが出来れば継続的な研究活動への大きな財産となる。下記に医療分野における主な産学連携助成プログラムを表にした。

公的助成金				
助成機関	支援プログラム名	期間	助成金額	備考
JST	A-STEP	3年	年額 上限15000万円	育成型(グラント)
JST	A-STEP	5年	年額 上限1億円	本格型(マッチングファンド)
AMED	ACT-MS	2年	年額 1100-1500万円	大学等と企業の共同提案 大学等のみに支援
AMED	ACT-M	3年	年額 3100-3800万円	大学等と企業の共同提案 大学等と企業に支援

企業助成金			
助成企業名	助成プログラム名	期間	助成金額
旭化成ファーマ	A-COMPASS	1年	200-500万円
第一三共	TaNeDA	2年	1000万円まで
武田薬品工業	COCKPI-T (Funding)	約1年	500万円程度

現在のところ、規模こそ科研費(*1)と比較して産学連携の実施状況(*2)をみると大きな隔たりもあるものの共同研究の規模は拡大傾向にあると明記されている。企業の需要に対して共同研究先をマッチングするサービス (<https://pprp-japan.org/academic-industrial/>, <https://epist.jp/matching-platform/>) があり、有効に活用する事で産学連携が促進されると期待される。他にも共同研究を行う企業を探す手段としては、BioJapanなどの展示会への参加、学会発表の題名を企業が興味を引くものにするなどの、研究者が企業へ積極的に働きかけることが大切となるものの、研究者個人からアプローチする場合は少ないのが現状で、産学連携に置ける今後の課題であると言える。

上述のように産学連携の土壌は発展してきており、産学連携による研究費の獲得は今後ますます

す増える事が期待される。そこで、産学連携による研究をスムーズに進行する為の注意点を挙げてみる。文部科学省では、「基本的な使命・役割を異にするセクター間の連携であり、産学官連携活動に際しては、各セクターの使命・役割の違いを理解し尊重しつつ、双方の活性化に資するような相互補完的な連携を図っていくこと」(*3より引用)としている。実際には、企業は研究費を出し、大学は専門的知識および技術を提供する形になっている。しかしながら、大学と企業ではいくつかの点において考え方に差異がある。例えば、研究結果の期日である。研究者にとって結果をいつまでに出すというのはあくまで目安であり、失敗など色々な要因により定まらないことも多いが、企業にとっては納期として明確に定められており、それを厳守する傾向が強い。また、ネガティブデータの取り扱いや知的財産についての考え方についても大きな隔りがあるようである。これらの考え方の違いにより、先に挙げた文部科学省の掲げる産学連携が上手くいっていない面もあると考えられる。

以上より、現在の研究費の獲得という点では科研費や助成金が主流であるが、大学などの研究機関と企業の認識の違いを踏まえた契約方法を模索することにより、適切な産学連携共同研究活動の実施および研究費獲得の機会の増加につながると考えられる。

* 1 令和元年度の科研費https://www.mext.go.jp/content/20200327-mxt_gakjokik-1414298_00001_1.pdf

* 2 平成 30 年度産学官連携等実施状況
(https://www.mext.go.jp/content/20200109_mxt_sanchi01_000003783_02_01.pdf)

* 3
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu8/toushin/attach/1332039.htm

3) 研究費獲得へ向けた申請書作成のポイント

研究費獲得には殆ど全てと言って良いほど研究内容を伝える申請書の作成が必要で、採択されるには申請書の中身を充実させる事が必須と言える。また、多くの研究者が応募するため研究費の獲得は容易ではなく、また短時間で審査員に分かりやすく魅力が伝わるようにする研究計画書の書き方のようなスキルが必要とされる。特に、審査員が1つの申請書にかけられる時間は短く、1枚目で如何に審査員を引き込むかがポイントとされる。そこで申請書作成に当たっての参考書で指摘されている主なポイントと採択の成否からの考察を下表に纏める。

参考書の指摘	○通った申請書	×通らなかった申請書	検証
魅力的なタイトル ダメ例「～の検討」 「～の解明」	ダメ例タイトル	ダメ例タイトル	タイトルは大事だけど、ダメタイトルでも通る時は通る
専門外の人でもわかりやすいように	出来る限り簡単な言葉で、文章も短くしている。	無理が自分でもわかってるので、難しい言葉を使うことで打破しようとしている。	

空白	空白はあるが、ページ下までは埋まっている	空白がない時とある時あり。	明らかに書くことがなさそうな空白はだめ
図表を入れる	概要に関して図表を利用 これまでの結果を入れている	概要に関して図表を利用 これまでの結果を入れている	バランスが大事か？ 入れればよいというわけでも。 読み手が時間短縮になる図に。 共同研究者の役割分担を図にしても良
その他	断言した表現が多い「～する」「～したい」	「～の可能性がある」など、表現が控えめ	
研究推進能力	関連した論文がない	関連した論文がない	関連論文がなくても通る助成もある。
	確実に結果が出せる実験を示している	やってみないとわからない実験がある	

その他にも下記のようなポイントが指摘されている。

- ・最初の3行が重要
- ・書けと書いてある項目を書く
- ・強調線は使いすぎない
- ・研究が遂行不可能となった際の矯正法を示す

また、魅力的な申請書の作成に加えて自身の研究を正しく評価してもらうためには「審査区分的に選ぶ」事が重要であると考えられる。実際に、応募する研究内容に対して、いくつかの異なる審査区分の候補がある場合、申請書の内容にふさわしければ、これまで通らなかった申請書が他分野で採択という例もあるとも言われている。分野による採択率の違いも若干存在するため、申請書を書き終えたあとの最後の慎重さが求められる。

参考)

申請書の書き方サイト

<http://www.kakenhi.net/>

http://www.f.waseda.jp/atacke/Seven_Basics.pdf

<https://dr.ryotanakajima.com/others/kakenhi>

4) 研究業績をつくるための大学支援

a. 資金面での支援

文科省/厚生省の科研費、民間企業や財団の助成金の採択には、研究テーマ、所属、研究業績など、さまざまな観点から判断される。その中で、上述したように審査委員の興味を引き、より優れた研究計画書を書くことが重要となる。しかし、研究業績が空欄では、研究遂行能力がないと判断され、どんな優れた研究計画を書こうとも、見向きもされないのが現実である。また、有名な研究室や有名な教授に師事していない場合は、特に研究業績は重要になる。科研費には、これまでの研究活動(応募者の研究遂行能力及び研究環境)を記載するところがあるが、民間企業や財団の助成金の申請書はほとんど全て研究業績は論文記載欄である。そして、多くの申請書は、過去3~5年間に於いて発表した論文の記載のみである。つまり、数年のスパンでコンスタントに論文を出していないと、助成金獲得は難しい。

研究遂行には、研究者本人の能力と努力は必須であるが、助成金を獲得するための下準備としての研究費が必要である。多くの大学では、学内者向けの研究助成を行っているが、特に、科研費の採択件数増を目的とした助成が当大学を含めて様々な大学で行われている(表1)。

表1: 科研費獲得に向けた研究支援

	日本医科大学	昭和大学	東海大学(医学部)	信州大学	大阪医科大学	九州大学
対象	若手・女性研究者	専任教員	専任教員 特任研究者 大学院生	—	—	—
助成金額	30万円(A判定*)	100万円(A判定*) 50万円(B判定*)	100万円(重点研究) 50万円(萌芽研究)	A評価者研究費支援* 研究力強化支援	30万円(若手研究*) 100万円(大型研究**)	1000万円まで**
助成件数	—	—	重点研究(15件) 萌芽研究(50件)	—	—	3件

*科研費に研究代表者として応募し、不採択となった者

**科学研究費補助金の大型種目に応募し、不採用になった者

また、近年、論文投稿料が高額化しており(ハゲタカジャーナルでなくても高額)、これらが論文発表のネックになっている。このために、国際学術誌へ投稿を行う際に必要となる英文校正費、投稿費の助成が必要である。本学は、文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の支援を受けて、女性研究者限定で英文校閲費用助成の制度がある。この支援を受けている大学では同様な制度がある。しかし、いくつかの大学では、大学独自で専任教員を対象した学術論文投稿助成制度がある(表2)。このような研究支援を受け業績を上げていくことは研究費を獲得するためには必要である。

表2: 学術論文投稿助成制度

	日本医科大学	東洋大学	新潟大学	横浜国立大学	立教大学	東邦大学(医学部)	慶応大学(医学部)
対象	女性	専任教員	専任教員 (45歳以下)	専任教員	専任教員	レジレント 助教	専任教員
英文構成費	○	○	○				
投稿費		○	○	○	○	○	○
助成金額(上限)	10万円	40万円	10万円	40万円	100万円	予算内で 分割	全額、または、 5万円
利用回数	1回/年	3回/年	複数応募可	—	—	1回/年	
支援	ダイバーシティ 研究支援	大学独自型	大学独自型	大学独自型	大学独自型	大学独自型	大学独自型

b. 研究環境整備による支援(研究系 URA の配置)

我が国の大学等の研究者において研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況から文科省が進めているのが、「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整

備」である。これは、URA（研究開発の内容についても一定の理解を有し研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材）の育成・定着を後押しするもので、URAの業務として研究プロジェクト（大学間連携および産学連携）の企画、関係法令等対応状況の精査、会計・財務・設備管理、進捗管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進などがあげられる。

2004年の国立大学法人化以降、研究管轄の全学的部署の設置が進められ、文科省の公募事業として2011年から国立大学を中心に15大学、さらには2013年からは私立大学2校を含む19大学においてURA体制の整備充実への助成が図られた。2018年の調査では、URAは全国の大学等の146機関において1,225人が配置されている。いまやURA職は大学における教員、職員に次ぐ第三の職と位置付ける動きがあり、たとえばキャリア支援ポータルサイト：JREC INでURA募集が20件程度あり（2020年10月9日現在）、応募資格として学位、科研費等競争的資金の採択実績、英語でのコミュニケーション能力等が求められるなど、事務系にとどまらない研究系URAへの各大学の期待の大きさがうかがえる。

報告書が公表されている順天堂大学を私学医学系大学の例としてあげると、専任の研究系URA4名がおかれ、URAの関与後6年で科研費採択率は約1.4倍となり、特に採択者からの評価が高いのは申請前の申請書レビューであると報告されている。

本法人においては、日本医科大学では研究統括センターおよび知的財産推進センターが、日本獣医生命科学大学では研究部が設置され、研究推進の役割を担っている。ただ規模の大きな大学に比べ専任の人材確保が難しく、教員が兼務で委員として業務を行う例も多い。例えば日獣大のアカデミックアドバイス制度は、アドバイザーが学内の科研費採択経験教員であり、制度利用へのためらいとアドバイザーの負担につながっているように感じる。

以上 a、b を含め本大学においても全ての研究者を対象とした研究支援の充実が望まれる。

参考)

- ・文科省 リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備
https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/index.htm
- ・文科省 平成29年度大学等における産学連携等実施状況について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730.htm
- ・大学のリサーチ・アドミニストレーターの導入と変遷に関する日米比較 ―リサーチ・デベロップメント機能の拡大― 山野真裕 大学経営政策研究 2016 第6号 67-82
- ・順天堂大学 URA（JURA）活動報告書 2014～2019
- ・医療系 URA に求められる役割と medU-net の取組み
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/04/07/1369169_11.pdf